造影CT検査に関する説明及び同意書

１．造影CT検査とは

造影CT検査とは、ヨードを含む薬（造影剤）を血管内に注射しながらCT検査を行なうものです。造影剤を使用することにより、病変の存在や形状などがより詳しく描出され、診断に大変役立ちます。造影剤を使用しなければ、病気を発見できない場合もあります。

２．造影剤の副作用

ヨード過敏症の方は造影剤を使用できません。

造影剤を使用すると、まれに副作用が起こることがあります。アレルギーの既往があると副作用の起こる確率が高くなったり、喘息の既往があると喘息の発作が起きたり、喘息がひどくなったりすることもあります。

【軽い副作用】

**頻度は約100人に１人以下**

発疹・かゆみ・吐き気・嘔吐・くしゃみ・せき・頭痛など

　　ほとんどは検査直後に起こりますが、検査の１～２日後に発疹が現れることもあります。

【重い副作用】

**頻度は約６０００～９０００人に１人**

ショック・呼吸困難・腎機能障害など

□心臓冠動脈造影CT検査の前処置について （心臓検査の前処置がある場合にチェックをお願いします。）

心臓が速く拍動してしまうと、検査の精度が落ちてしまうため、心拍数を安定させる目的で、検査の１時間半前にβブロッカー薬（ロプレソール）を使用します。また、ニトロ製剤（ミオコール）を口腔内に噴霧し、血管の状態を安定させて検査を行ないます。

まれに副作用として血圧・脈拍の低下、頭痛、アレルギー症状が起こる可能性があります。

検査における危険性を含め担当医師から説明を受けて、同意します。

令和　　　年　　　　月　　　　日　　　　本人署名

　　　　　　　　　　　　　　　　　　または代理人署名

【医師記入】

　令和　　　年　　　　月　　　　日　　　　医師署名

2019/0５/01改定